専門研修プログラム名	双岩病院精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	八幡浜医師会立双岩病院	
プログラム統括責任者	松本光央	

専門研修プログラムの概要	八幡浜医師会立双岩病院は、愛媛県八幡浜市にあり、全国唯一の医師会が運営する精神科病院である。また、来るべき南海トラフ地震においては、愛媛県の災害拠点病院となるなど、地域で求められている医療機関である。基幹病院としての特徴は、医師会立であることを活かし、準公的な医療機関として、保健所など自治体と密な連携を取り、地域の精神科医療に携わっているのが特徴で、そのなかでは、八幡浜市立病院と連携し、身体合併症を持つ精神科患者の後方支援や精神症状のため中長期入院が必要となった身体疾患を持つ患者の中間施設として重要な役割を担っている。入院患者の治療においては、比較的余裕を持ち、地域と深いつながりを持ちながら、患者に関わる地域密着型の病院である。常勤している精神科医は、認知症などの老年精神医学を専門とする精神科医、長く大学病院で研修指導に当たった精神科医をはじめ、公衆衛生に造詣の深い精神科医が非常勤で勤務するなど精神科病床のみの単科精神科病院としては充実した布陣である。また、医師会立の病院であり、地域の診療所などとの連携が深く、認知症かかりつけ医としての役割、地域での啓発活動など地域精神科医療に深く関わることができる環境にある。連携病院として、総合病院として、愛媛大学附属病院および四国中央病院、精神科病院として松山記念病院、松風病院、ユリノキ病院、財団新居浜病院、正光会今治病院、堀江病院、正光会宇和島病院といった県全域の医療機関を連携施設としている。専攻医は、これらの施設をローテートしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能である。精神医学は、極めて幅広い領域を含有しており、そこには生物学的、心理学的、社会的な次元に加えて、実存的・哲学的問題も関与している。このプログラムでは、比較的余裕を持って地域医療を実践したいものに対して、大学病院や地域の総合病院などでの精神科医の経験を初め、愛媛県の異なった地域での精神科医療を経験できることが特色である。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間内に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	医療資源の限られた環境の在宅、入院患者の検査、治療の必要性、優先順位の判断、サービスの有効利用のためのマネージメント
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	自身の診療計画、内容、経過の評価を多職種より受ける。専門的知識に偏らず、一般介護者とも十分な情報共有ができることを目標とする。
	学問的姿勢	専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。

	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	研修期間を通じて、１）医師患者関係の構築、２）チーム医療の実践、３）安全管理、４）症例プレゼンテーション技術、５）医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	１年目：基幹病院で指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害、児童思春期、摂食障害、認知症の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・コンサルテーション精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。院内研究会や学会で発表・討論する。２年目：基幹病院または連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。院内研究会や学会で発表・討論する。３年目：基幹病院または連携病院で、指導医から自立して診療できるようにする。認知行動療法や力動的精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する
	研修施設群と研修プログラム	1年目は研修基幹病院で、2, 3年目は研修連携施設をローテートして研修する。専攻医は年1名程度を予定している。研修基幹施設は、八幡浜市にある双岩病院であり、主要な精神疾患患者を受け持ち、面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法の基本を学ぶ。さらに地域医療やアルコール依存症、思春期外来での診療を学ぶ。以下、愛媛大学病院及び四国中央病院は総合病院であり、その他は精神科病院で研修連携施設である。愛媛大学病院（東温市）および四国中央病院（四国中央市）では、思春期症例、身体合併症、コンサルテーションリエゾン、難治性精神疾患治療（クロザピンやm-ECT）など、総合病院臨床を幅広く経験する。愛媛大学病院の指導医は4名、四国中央病院の指導医は1名である。連携施設である単科精神科病院では、愛媛県各地域の地域医療について幅広く経験する。松山記念病院は、松山市にあり、精神科スーパー救急病棟を持っており、精神科救急について深く学ぶ。指導医は8名。松風病院は、四国中央市にあり、高齢者および児童を中心に関わっている精神科病院である。指導医は2名。ユリノキ病院（指導医3名）および財団新居浜病院（指導医3名）は、新居浜市にあり、ともに精神科リハビリテーションに力を入れている病院である。今治病院は、今治市にあり、島しょ部の診療に力を入れている病院である。指導医は4名。堀江病院は、松山市内にある病院であり、アルコール依存症のプログラム、SSTなどのプログラムを持っている。指導医は2名。宇和島病院は、宇和島市にあり、薬物依存、うつ病への認知行動療法を行っている。指導医は、4名。

	地域医療について	本プログラムには愛媛県下各地域の病院群が参画しており島しょ部、山間部といった医療へき地を含む地域が多く含まれている。その中で、地理的な特殊性や医療資源の有効利用に配慮した治療計画、実行ができるよう指導を受けることができる。
専門研修の評価	「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に１回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこなう。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。指導医による指導とフィードバックの記録専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年１回は指定された研修項目を年次ごとに達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。	
修了判定	３か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。研修目標の達成度を当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ６か月ごとに評価し、フィードバックをする。１年後に１年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。その結果を管理委員会にて総括的に評価し、専門医としての知識、技術が十分に獲得されているか判定する。プログラムに記載された知識・技能・態度にかかわる目標の達成度が総括的に把握され、専門医受験資格がすべて満たされていることを確認し、修了判定を行う。最終的にはすべての事項について記載され、かつその評価が基準を満たしていることが必要である。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	専攻医の就業環境や健康状態、研修内容の過不足に注意を払い、適宜適切に対処する。
	専攻医の就業環境	月曜から金曜：午前8：30から午後17：15まで。昼食休憩1時間15分を含む。就業場所は主に双岩病院の外来と病棟である。
	専門研修プログラムの改善	基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラムの内容について討議し、継続的な改良を実施する。
	専攻医の採用と修了	専門医機構および日本精神神経学会のホームページに、専門研修プログラムの公募を明示する。専攻医の応募締切りは8月末、9月中に全施設でほぼ一斉に第1回採用選考を行い、書類審査とともに面接などを行う。一次選考で決まらない場合には二次、三次選考を行い、随時採用する。　一方、あるプログラムに集中した場合には、他のプログラムを紹介するが、出来るだけ希望に添えるよう配慮する。修了はプログラムに記載された知識・技能・態度にかかわる目標の達成度が総括的に把握され、専門医受験資格がすべて満たされていることを確認し、修了判定を行う。最終的にはすべての事項について記載され、かつその評価が基準を満たしていることが必要である。

	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	個別に対応し柔軟に対応する
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	時期を協議の上実施する。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	双岩病院医師：松本光央、愛媛大学医学部付属病院医師：上野修一、同医師：伊賀淳一、松風病院医師：森野日出緒、ユリノキ病院医師：武田直也、財団新居浜病院医師：西谷周作、正光会今治病院医師：溝渕睦彦、堀江病院医師：細田欣也、正光会宇和島病院医師：山内宏治	
Subspecialty領域との連続性	様々な関連するSubspecialty領域については、連続性を持った研修が可能になるように、各領域と検討していくこととする。	